

令和4年度 青梅市立第七小学校 学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞	1 豊かな心の育成	2 確かな学力の育成
	3 健やかな体の育成	4 家庭や地域との連携

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
豊かな心の育成	自他ともに尊重する「仲良く助け合う子」を育成する。	人権教育・心の教育の推進による自己肯定感の向上	異年齢集団（たてわり班）による清掃や集会、学校行事などの活動を通して、思いやりや尽くす心の育成を図る。	A	異学年同士の交流が互いの成長を促進している。	感染対策を講じ、できる活動を今後も継続していく。	A	異年齢での活動が良い経験になっている。	継続する新たな活動を模索
			あいさつ運動やいじめゼロ運動など、挨拶や言葉の力を実感できる取組の充実を図る。	B	児童会が中心となり、呼びかけを積極的に行っている。	PTA やCS 委員にも呼びかけ、地域全体での活動に広げる。	A	元気にあいさつができている。習慣づけを。	あいさつ運動を地域全体に広げる。
			お互いを認め合い、自由なコミュニケーションができる、心理的安全性が保たれた学級づくりを推進する。	B	おおむね、円滑なコミュニケーションが図られている。	家庭や地域との連携を図りながら、個の伸長を図る。	A	互いを思いやる児童が多い。家庭と連携を。	コミュニケーションを通じ、多様性を図る
確かな学力の向上	楽しく自ら「進んで学習する子」を育成する。	学習意欲の向上（主体的な学び）と学びの個別最適化・協働化	問題解決的な学習を重視し、めあて・振り返りのある授業を通じて学習意欲の喚起を図る。	B	意欲をもって学習に臨めるように取り組んでいる。	めあて、振り返りを意識した授業を継続していく。	B	少人数だからこそできることに期待する。	校内研究を軸に、学力向上を図る。
			互いに学び合い、対話のある授業により、考える力・表す力の育成を図る。	B	互いの発言を認め合うなど、学び合いの姿勢が見られる。	考えを発言できる児童を育むような授業改善を行う。	A	相手の話を聞く、意見を認めることが大切	対話を大切にした授業の推進
			言語活動や読書活動の充実を基盤に、タブレット端末の日常的な活用（教具から文具へ）を推進し、学びの個別最適化・協働化を図る。	B	タブレット端末を活用する場面が増えてきている。	ICT サポーターによる研修を行い、活用方法を学ぶ。	B	タブレット端末と読書活動の両輪の推進を	タブレット端末のさらなる活用推進
健やかな体の育成	安心安全な環境の中で「丈夫な体をもつ子」を育成する。	健康・体力づくりと命を守る教育の推進と特別支援教育等を含めた多様性のある教育環境の推進	体力アップカード、サーキットトレーニング、マラソン・なわとび月間等による日常的な取組により、体力維持と向上を図る。	B	マラソン月間は効果的だったが、他の期間は課題である。	異学年交流を生かし、体力アップカードの活用の改善	B	学校でも家庭でも、体力作りの推進を。	年間を通し、日常的な体力作り推進
			地域の実態を考慮した日常的な安全指導・安全管理の徹底と、実践的な避難訓練により、自分の命は自分で守る意識の向上を図る。	A	外部と連携を取りながら、年間を通して、計画的に行えた。	Jアラート時の対応を含め、様々な場面を想定して実施	A	繰り返し訓練し、地域との連携意識の向上を	学校で学んだことを家庭でも生かす
			スクールカウンセラーや教育相談室の活用と、特別支援教育の推進により、健康な心と身体の育成を図る。	A	児童の様子を細やかに見ていただき、情報共有している	今後も外部資源を活用し、個に応じた支援体制を構築	A	丁寧に児童の様子を見ていただいている	取組に関するPRを工夫する
家庭や地域との連携	地域に根ざした「地域の風が行きかう学校」づくりを推進する。	地域・保護者との連携と地域の環境や人材を活用した教育活動の推進	地域人材や環境を活用した体験活動（ヤマメ、ウサギ、蚕の飼育体験や野菜、稲作等の栽培体験）の充実を図る。	A	地域の方を講師に招き、教育活動を推進できた	持続可能な活動にしていいため、引継ぎをきちんと行う	A	取組の継続で地域に誇りを持つ児童育成を	地域人材、地域環境の活用を継続
			コミュニティスクールの円滑な立ち上げと、地域と連携した創立150周年記念事業を計画的に推進する。	B	CSの周知、目指す方向性などの共有が図れるとよい。	CSでは、地域主導型に移行できるものを検討していく	B	CSに対する意識向上や方向性等の明確化を	CSへ移行できる活動を明確にし、増やす
			行事や授業の交流・共同学習を通じて、第六中学校や成木小学校、地域の保育園との連携を推進する。	B	コロナ禍ではあるが、できる範囲での交流活動が行えた	保育園や近隣小学校との交流学習を推進していく	B	高齢者との交流活動等、さらなる充実を	行事参観を地域の方にも開いていく

\*評価 A：達成した B：ほぼ達成した C：もう少し D：達成できなかった